

江戸遺跡研究会第90回例会は、2003年5月15日(木)午後6時30分より江戸東京博物館学習室にて行われ、八代和香子・水山昭宏氏より、以下の内容が報告されました。

## 南千住回向院別寮埋葬地の調査

### 八代和香子・水山昭宏

(荒川区小塚原刑場跡遺跡発掘調査団)

#### 1. 史跡及び遺跡としての小塚原刑場跡

小塚原に御仕置場が移転してきたのは、本所回向院が持地に拝領した寛文七年(1667)より前のことと考えられる。「間口六十間余。奥行三十間余」で都合1800坪余ということになる(単純計算では $108 \times 54\text{m} = 5832\text{m}^2$ 、実際には約6000 $\text{m}^2$ という所か)。鈴ヶ森と異なり、御仕置に直接関わる機能だけでなく、「今二牢死・死罪之屍・町町行倒・寄場御人足等」と4種類の無縁死骸埋置機能も持っていた。他に2点、重要な機能として御様(ためし)御用と御用解剖も挙げられる。

昭和57年度(1982)に「小塚原刑場跡」が荒川区登録記念物(史跡)に登録されているが、住所は回向院のものとなっている。恐らく、幕末に処刑された志士の関係から、刑場の範囲ではなく、回向院の住所が登録対象になったものと思われる。

昭和60年度(1985)には現在の延命寺内に位置する「小塚原の首切地蔵」が荒川区指定有形文化財(歴史資料)に指定されている。首切地蔵は寛保元年(1741)に建立されたもので、元は南千住貨物線の南にあったが、明治28年の鉄道工事の際に現在地に移された。なお延命寺は後世に回向院から分れて独立したものである。

平成10年度(1998)になって、「小塚原刑場跡」が周知の遺跡(周知の埋蔵文化財包蔵地)に登録された。住所は南千住5-33附近である。ここにおいて初めて、当時の仕置場の方形区画を面的にカバーするアプローチが採用されたことになる。

同年10月30日に、常磐新線関連工事に伴い、回向院前の道路下から井戸状の枠と104点の頭蓋骨(下顎は3点のみ)が発見されている。回収された骨は国立科学博物館人類研究部で整理分析された。性別は、男性100体(うち疑問9体)、女性4体(うち疑問3体)。推定年齢は成人102体、未成年の個体は2体である。動物の噛み痕は無かったが、多くの損傷が見られた。但し、残首の明白な痕跡は確認されなかった。

## 2. 調査の目的と経過

今回の調査（計約160㎡）は、常磐新線工事に伴うものである。トンネル工事の都合から竪坑が設けられる地点で、道路際を先行して工事していたところ、頭骨1点が出土したのが発端である。竪坑予定地点は周知の遺跡の内部であり、かつて厚く盛土された線路敷の下であったため、良好な遺存状態も予測された。

工事の都合上、当初予定した調査区（これをA区とする、約130㎡）に先行してB区（約32㎡）の調査を2002年2月16日から2週間の予定で開始した。当初は人骨の出土量は極めて少なかったが、6日目になって調査深度が濃密な包含層に達し、近世層の下部が事実上の骨塚状態だったことが明らかとなった。調査期間は約1週間延長したが、極めて狭い調査区で能率が上がらず、図面は頭骨の出土位置を簡易に記録する程度に止め、骨が損傷しないように掘出して取り上げる作業を優先した。

A区の調査は2002年6月3日から9月2日に実施した。濃密な包含層対策として十分な期間・人員・設備を用意し、人骨等は簡易オルソ法で実測することで迅速化を図った。

## 3. 遺跡の立地と層序

遺跡地は、上野台地先端から北東に伸びる海岸砂堆起源の微高地縁の斜面部に位置する。調査区周辺の道路に崖線が明瞭に残されており、つなぐと巾着状になることから、近世には湧水池が存在した可能性が高い（近代まで残っていた可能性もある）。近隣の素蓋雄神社附近に湧水池があった事は古地図でも確認できるが、同様の地形が考えられる。遺跡地は、どうやら岸辺付近に相当し、少なくとも馬捨や遺骸埋置が始まった当初は、遺骸が泥底に沈み込む状況だったと考えられる。

基本層序としては、まず沖積層上部砂層に相当する砂質シルトを基盤とする。現地表下-3m付近にカキ層を検出した。砂質シルト層上には数十cm厚の暗緑色粘土層がのる。近世包含層は約1mあるが、下半が骨塚状を呈し、上半部は多くの盛土が搬入されたようである。近世層上面は竹樋や杭列が並び、印判手を含む大形廃棄坑もあった事から、鉄道敷となる前に近代初頭の生活面も存在したようである。

## 4. 遺構と遺物

A区人骨包含層から古い土器片がいくつか出土した。本稿執筆時点までに縄文時代早期条痕文系1点、晩期安行1点、土師器（古代）2点を確認した。土師器は酸化鉄が付着して赤みを帯びている。縄文土器は人骨包含層下部のg層（グリッド5）とした砂質層及び56号遺構出土である。B区出土の土器1点も土師器の可能性もある。

本遺跡の特徴を一言で言い表せば、骨塚（混土骨層）である。B区ではヒト頭骨だけで55体、A区では237体を数えた。攪乱を除く実質面積から考えると、ざっと2体/㎡の計算になる。A区での骨層実測個体内、頭骨あり73体（64%）、頭骨なし28体（25%）、未確定13体であるが、実測個体数は出土頭骨数の半分しかない（それだけ散乱度が高いという事である）。番号付きで取上げた

四肢骨はA区で約1700点に達した。特に注目されるのは53号・64号遺構で、15体～16体程の欠損のない個体が略方形の掘込みを伴って埋葬されていた。56号遺構も類例と考えられる。それぞれ、埋葬が一回のイベントとして行なわれた事を示しているだろう。

今回の調査では寛永通宝が数多く出土しており、最多で30枚というケースもあった。銭の遺物上げ単位を出土ユニットと考えれば、A区で66に達し、A区骨層実測個体数114に対して約6割にあたる。副葬品としては、他に数珠も挙げられる。包含層下層からは完形の寸胴徳利などの焼物類が散発的に出土する傾向もあった。

また馬を中心に猫・犬など100点ほどの獣骨が出土した。驚くべき事に、B区中央の包含層基底から出土した木棺は、馬の棺であった。A区も合わせ、骨格が揃っている可能性のある馬が数カ所出土しているが、棺に埋葬されていたのはこの1点である。A区では馬頭骨の集積もあった。

B区では馬棺の他は上層の杭列程度だった遺構だが、A区では包含層下面にも溝や土坑などが多数検出された。最上部の盛土層上では、多数の杭列、ジョイントで連結された竹樋、穴蔵(35号遺構)、火葬骨(1号遺構)等が検出された。35号遺構は特に大規模なもので、転用廃棄坑として大量の陶磁器木製品等が出土した。

整理が十分に及んでいない段階での印象であるが、B区包含層の遺物はほぼ19世紀前半という印象があった。A区の遺構出土遺物を見ると、少なくとも18世紀中頃まで遡る遺物が散見される。A・B区とも盛土の上層では印判手など近代的な遺物が包含される。

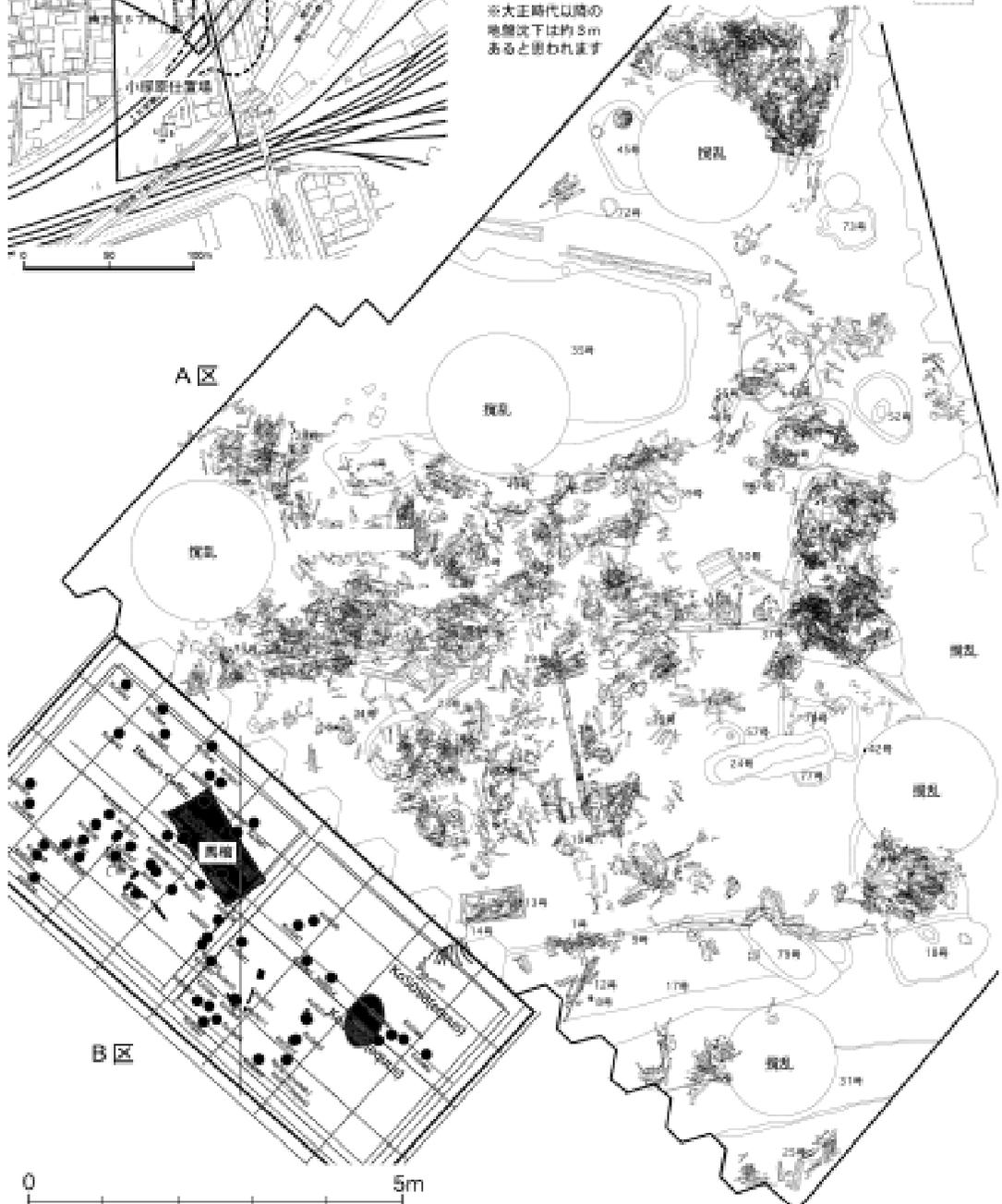
人骨は、骨格のまとまりの良いものは包含層基底から出土する例が多かった。包含層上部やB区では一般に散乱した出土状況であった。

#### 【参考文献】

- 大谷江里・馬場悠夫 2001 「小塚原刑場跡出土人骨の形態学的特徴」『国立科博専報 37』 国立科学博物館  
亀川泰照 2002 「刑死者の行方 - 近世後期の小塚原仕置場 - 」『館報(平成12年度・紀要(第3号))』 荒川ふるさと文化館 -MS\_Mac\_OE\_3139812578\_898812\_MIME\_Part--



※大正時代以降の  
地盤沈下は約5m  
あると推われます



## 会費納入のお願い

江戸遺跡研究会では、会報送付の通信費として1年に¥1,000の御負担をお願いしております。この時期になってしまいましたが、2003年につきましても同封の振込用紙にて通信費の振り込みをしていただけるようお願いいたします。また、前年以前の未納入の方につきましても重ねてお願いいたします。

なお、前号でお知らせしました3カ年以上未納で未だ納金されていない方は、送付は希望しないと判断させていただきましたのでご了承ください。

### 📖 📖 📖 最近の文献 📖 📖 📖

#### 単行本・報告書

- ・青森県史編纂考古部会 2003.3 『青森県史 資料編 考古4 中世・近世』
- ・白河市教育委員会 2003.3 『谷津田川流域水車跡群発掘調査報告書』
- ・福島県三春町教育委員会 2003.3 『近世追手門前通遺跡群E地点 町民センター関連遺跡発掘調査報告書』
- ・八丁堀三丁目遺跡調査会 2003.3 『東京都中央区八丁堀三丁目遺跡 - 中央区八丁堀三丁目20番 宿泊施設建設に伴う緊急発掘調査報告書 - 』
- ・明石町遺跡調査会 2003.1 『明石町遺跡 - 中央区明石町1番 介護老人保健施設等複合施設(仮称)建設に伴う緊急発掘調査報告書 - 』
- ・東京都埋蔵文化財センター 2003.3 『汐留遺跡 』
- ・港区教育委員会 2003.3 『旗本柴田家屋敷跡遺跡・勝安房邸跡発掘調査報告書』
- ・大阪大学埋蔵文化財調査室 2003.3 『久留米藩蔵屋敷跡 - 大阪大学中之島センター建設に伴う調査報告 - 』
- ・金沢市埋蔵文化財センター 2003.3 『石川県金沢市高岡町遺跡 』
- ・金沢市埋蔵文化財センター 2003.3 『石川県金沢市昭和町遺跡 』
- ・金沢市埋蔵文化財センター 2003.3 『石川県金沢市本町遺跡 』
- ・北九州市芸術文化振興財団 2003.3 『小倉城代米御蔵跡 』
- ・人吉市教育委員会 2003.3 『史跡 人吉城跡 』

---

## 第91回特別例会のご案内

---

日 時：2003年7月19日（土）13:00～

- 内 容：・水本 和美氏（新宿区歴史博物館）  
「新宿区水野原遺跡の発掘調査 - 幕末期を中心に - 」  
・池田 治氏（かながわ考古学財団）  
「津久井城関連遺跡の発掘調査」  
・伊平 敬氏（群馬県埋蔵文化財調査事業団）  
「上福島中町遺跡の発掘調査」

会 場：江戸東京博物館 会議室(例年、大会を行うところ)

（大階段北側の通路を東に進み、駐車場の脇を直進し、左側の夜間入口より入る）

交 通：JR総武線両国駅西口改札 徒歩3分  
都営大江戸線両国駅(江戸東京博物館前)  
4出口 徒歩1分

問合せ：江戸東京博物館

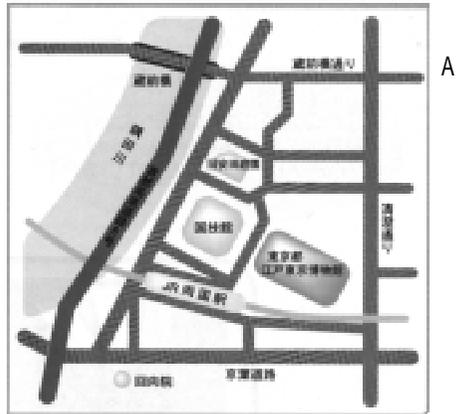
03-3626-9916（小林）

東京大学埋蔵文化財調査室

03-5452-5103（寺島・堀内・成瀬）

江戸遺跡研究会公式サイト

<http://www.ao.jpn.org/edo/>



---

### 【編集後記】

第91号をお届けします。7月は、恒例になりました「特別例会」で、上記のとおり19日（土）に開催します。ふるってご参加ください。